

「ファニーたい焼きトム53 ワダ
パオ」

脚本

第一幕：奇想天外な新商品発表！

シーン1：たい焼きトムの朝

（都内の小さなたい焼き屋『たい焼きトム』。開店準備中の店内。トムがエプロン姿でハイテンションに動き回る）

トム（陽気に）「オーライ！今日もファスタステイックでファニーな一日が始まるぞー！」

魚住（あきれ顔）「そんなテンションで朝からバテませんか？」

トム（胸を張る）「ノーノーノー！ エネ
ルギーは無限！ ワタシの情熱はたい焼き
に注がれる！」

（トム、怪しげな箱をカウンターに置く）

魚住（警戒）「……それ、何です？」

トム（ニヤリ）「今日の新商品、『ワダ
パオたい焼き』！」

魚住（困惑）「ワダパオ……って、あの
インドのスパイシーなジャガイモコロッ
ケを挟んだバーガー？」

トム（満面の笑み）「YES！ たい焼きの
世界に革命を起こす一品！」

（魚住、頭を抱える）

魚住「……またですか。絶対何かヤバイ
やつですよね……」

シーン2：試作&試食

（トムが生地を伸ばし、特製のスパイス入りジャガイモパティを豪快に挟む。香ばしいクミン、コリアンダー、マスタードシードの香りが立ち上る）

トム（目を輝かせる）「スパイスが踊る！ジャガイモが熱狂する！そして生地が包み込む！」

魚住（疑いの目）「いやいや、たい焼きって普通、あんこが入ってるもんですよ？」

（ジュウウウ……。たい焼き機から湯気が立ち上り、黄金色に焼き上がる生地）

トム（興奮）「オーマイガー！見てこれ！パリッパリに焼けた外側！ほんのり甘い生地がスパイシーなワダパオを包み込み……ああ、たまらない！」

（トム、できたてを豪快にかじる）

トム（至福の表情）「クフッ……！カリ
ツと焼けた外側からじゅわっとバターの
香り！中にはねっとりホクホクのポテト
フライング、ガツンとくるスパイス！こ
れだよ、これがワタシの求めたフアニー
たい焼き！」

魚住（おそるおそる一口）「……ッ！」
（目を見開き、言葉を失う魚住。口の中
に広がるカリッ、ホクホク、スパイシー
な味覚のハーモニー）

魚住（驚愕）「……思ったより……ウマ
い……！」

トム（ドヤ顔）「でしょー！？信じる者
こそ救われるのデス！」

魚住（ため息）「いや、でもこんな売
れるんですか？日本人、スパイス強い
苦手ですよ？」

トム（親指を立てて）「ノープロブレム！
新時代の幕開けだ！」

第二幕：ワダパオたい焼き、 販売開始！

シーン3：お客たちのリアクション

（『たい焼きトム』オープン。店の前にはすでに行列ができている）

〇「客（おそろおそろの口に入れる）」……
えっ！？外はカリッ、でも中は……ふわ
とろ……スパイスがじゅわぁ……！」

（目を見開き、次の瞬間に感激の表情）

〇「客（感動）」なにこれ……！バター
のkokと、ホクホクのジャガイモの甘さ、
それに後からくるピリリとしたスパイス
の刺激……！」

サラリーマン客（がぶりと食らいつく）

「むっ！？こ……これは……！」

（口の中で弾けるマスタードシード、香ばしいクミンの香り、そしてじんわり広がるジャガイモの甘さ）

サラリーマン客（涙目） 「辛い……なのに、旨すぎる……！ビールが欲しくなる味だ！」

大学生（豪快に頬張る） 「うおおお！外カリッ！中トロッ！スパイスが鼻から抜けるうう！」

（悶絶しつつも、手が止まらない）

女子高生（SNS用に撮影しつつ一口） 「えっ、まって……！甘じよっぱい生地にスパイス効いてて、めっちゃウマ！」

（周囲が「私も！」と次々と購入）

トム（満面の笑み）「スパイスは愛、愛はスパイス！たい焼きの新時代、ここに爆誕デス！」

（次々と客が挑戦し、さまざまナリアクシヨンが続く）

第三幕：お忍びで来店したインドの王侯貴族

（店の前に漆黒の高級車が静かに停まる。車のドアが開き、豪華な刺繍が施されたローブをまとったインドの王侯貴族たちが姿を現す。目を引く金の装飾、まばゆい宝石の指輪。彼らの歩く先には、こぢんまりとしたたい焼き屋『たい焼きトム』がある）

貴族▶（興味津々）「ワダパオがたい焼きに……？まさか、そんな奇妙な組み合わせがあり得るのか？」

貴族♫（微笑みながら）「だが、この香りを嗅いでみる……スパイスの芳醇な香りが、まるで故郷に帰ったような気分にさせてくれる」

（扉を開けると、トムがいつものハイテションションで迎える）

トム（満面の笑み）「ウエルカム！オー、エレガントなお客様たち！ようこそ、たい焼きトムへ！」

魚住（小声）「……めっちゃ偉い人たちじゃないですか？トム、ちゃんと対応できますか？」

トム（親指を立てる）「ノープロBLEM！ワタシのたい焼き、どんな貴族もイチコロデス！」

（王侯貴族たちがカウンターに座る。トムはすぐに、黄金色に焼けた『ワダパオ

たい焼き』を供する。熱々のたい焼きから、カリッと焼けた香ばしい香りとバターのコクが立ち上る)

貴族○(慎重に一口)「……ッ！」

(目を見開き、一瞬言葉を失う。サクツとした外皮、ほくほくとしたスパイス香るポテトフィリング。ガーリックとクミンの香ばしさが鼻を抜け、じゅわっと広がるバターのコク)

貴族□(震える声で)「これは……たい焼きの皮がこんなにもスパイスと調和するとは……！サクサクとした食感の後に、なめらかでクリーミーなポテトが舌を包み込む……」

貴族▶(満面の笑みで)「ワダパオのスパイスと、日本の生地の良い甘さ……まるで東西の文化がひとつに溶け合ったかのような味わい！」

貴族♫（目を閉じてうっとり）「コリアンダーのほのかな苦みが、バターのコクと合わさって……噛むごとに味の層が増していく……これは芸術作品だ！」

（王侯貴族たちは、言葉を失ったようにたい焼きを食べ進める。トムはドヤ顔で腕を組む）

貴族○（興奮気味に）「これは、ぜひともインドに来て我々に振る舞っていただきたい！」

トム（目を輝かせて）「オーマイガー！インドデビュー！？ワタシ、もちろん行きます！」

（魚住は遠い目でため息をつく）

魚住（ぼそり）「なんでこんな展開になるの……？」

第四幕：インド大使館での披露

（豪華なインド大使館のホール。大理石の床、煌びやかなシャンデリアの下で、上流階級のインド人たちが華やかに談笑している。トムと魚住は大使館の厨房で、次々とワダパオたい焼きを焼き上げていた）

魚住（汗を拭いながら）「こんなに大量に作るなんて聞いてませんよ……！」

トム（余裕の笑顔）「エンターテインメントは量も大事デス！」

（テーブルに並べられた熱々のたい焼き。インドの王侯貴族たちが興味津々に集まる）

貴族▶(熱々を手にとり)「ほほう……
まるで黄金に輝く魚のようだ……では、
いただきます！」

(かじる。カリッ！外側の薄皮が砕け、
中からとろけるようなポテトフィリング
が溢れる。バターの香りとスパイスの辛
味が絶妙に混ざり合う)

貴族▶(目を見開く)「んんんッ！！！」

貴族♫(すかさず口に運ぶ)「これ
は……！！甘くて香ばしい生地のもとに、
じゅわっと広がるスパイスの衝撃……！」

貴族○(思わず涙ぐむ)「これはもはや
たい焼きではない……料理の革命だ……！」

(会場が熱狂する。貴族たちは次々とた
い焼きを手に取り、歓喜の声をあげる)

貴族ロ（感動に震えながら）「こんな美味を生み出したトム殿……ぜひ、我々の宮殿でも振る舞っていたきたい！」

トム（ガッツポーズ）「ワタシのたい焼きが、ついに世界へ羽ばたく！」

魚住（呆れつつ微笑む）「……ここまで来たら、もう応援するしかないですね」

第五幕：帰国

（成田空港。スーツケースを引きながら、トムと魚住が疲れ切った様子で歩いている。トムは肩をぐるぐる回しながら、大きなため息をつく）

トム（肩を回しながら）「王侯貴族を相手にするのは、マッサージが必要デ

ス……肩が凝る！」

魚住（苦笑しながら）「たい焼き屋がそんなこと言う日が来るとは思いませんでしたよ……」

（二人は出迎えの少ない早朝の到着ロビ―を歩く。が、突然、スマホの通知音が鳴り響く）

魚住（画面を見て目を丸くする）「……トムさん、大変です！」

（魚住がスマホをトムに見せる。そこにはインドの王侯貴族たちが大使館でたい焼きを頬張る姿がバズっており、『#ワダパオたい焼き』『#ロイヤルスナック』のタグと共に爆発的に拡散されている）

トム（ニヤリとしながら）「フッフ、ワタシのたい焼き、グローバル進出デスネ！」

（そのとき、周囲にいた乗客たちがざわつき始める）

通行人▶（スマホを見ながら）「あれ！？

この人、たい焼きトムじゃない！？」

通行人♫（興奮して）「本物！？マジで！？

すげえ、あのインドの動画見たよ！」

通行人○（トムに駆け寄る）「ワダパオ

たい焼き、ここで売ってないんですか！？

食べたい！！！」

（あつという間に人だかりができる。スマホを向けられ、トムは得意げにポーズをとるが、魚住は疲れ切った顔で呟く）

魚住（ボソツと）「……帰ってきてても、

休めないんですね」

（そこへ、たい焼きトムの店の常連客・

川村が駆け寄ってくる）

川村（息を切らしながら）「おかえり！
あのさ、テレビ局から取材依頼が来てる
よ！それと店の前、大行列になってる！」

トム（目を輝かせて）「グレイト！これ
ぞワタシの求めていた未来デス！！」

魚住（額を押さえて）「休ませてく
れ……」

（疲れ切った魚住とは対照的に、トムは
嬉々として飛行場の人々に手を振る。こ
うして、『ワダパオたい焼き』は一大ブ
ームとなり、たい焼きトムの伝説はまた
新たな幕を開けるのだった――）

（エンドロールと共に、たい焼きトムの
店の前の長蛇の列、SNSでの絶賛コメン
ト、ワダパオたい焼きを真似して作る人
々の映像が流れる。最後に『To be

continued...?』の文字が浮かび上がる）

第一幕（約 15 分）

- ・たい焼きトムの日常描写（店の雰囲気・トムと魚住のやり取り）
- ・ワダパオたい焼きの開発&試作
- ・魚住の困惑とトムの自信

第二幕（約 20 分）

- ・ワダパオたい焼き販売開始
- ・客たちのリアクション（4人の飯テロシーン）
- ・SNS や 口コミ で 話題 になり、大盛況

第三幕（約 15 分）

- ・インドの王侯貴族が来店
- ・王侯貴族たちの絶賛&飯テロリアクション（4人の詳細な描写）
- ・「ぜひインドで振る舞ってほしい！」↓
トム快諾

第四幕（約 20 分）

- ・インド大使館でのたい焼きイベント
- ・王侯貴族たちが食べるシーンを濃密に描写（4人の飯テロリアクション）
- ・トム、インドでの成功を確信

第五幕（約15分）

- ・帰国後の疲労&余韻
- ・日本での爆発的な反響&店の行列
- ・トムの「グローバル進出！」宣言で締め